

番号	32	令和7年度公共事業再評価調査				担当課名	砂防課																																		
事業名	地すべり対策事業				事業主体	静岡県																																			
箇所名	あおや 青谷				関係市町	浜松市																																			
事業採択年度	平成 28 年度			計画期間	平成28年度 ～ 令和9年度																																				
用地着手年度	令和 3 年度			工事着手年度	令和 3 年度																																				
再評価理由※	再評価実施（R2）後5年間が経過した時点で継続中の事業																																								
全体事業費	百万円 282	投資状況 (百万円)	～R5年度 177	R6年度 4	R7年度見込 10	計 191																																			
事業概要	(1)事業目的 青谷（浜松市天竜区龍山長瀬尻）は静岡県の西部に位置し、保全対象として人家5戸、国道152号及び一級河川天竜川を含む地すべり防止区域である。 明瞭な地すべり地形や構造物のずれ・沈下も認められ、集中豪雨等にて地すべり活動が危惧されるため、地すべり発生原因となる土塊中の地下水低下を図る横ボーリング工等の防止施設を整備するものである。 計器観測 1 式 横ボーリング工 3 群																																								
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・近年、激甚災害が頻発化し、県内でも甚大な土砂災害が発生しており、浜松市においても令和3年度以降に63件の土砂災害が発生するなど、事業に対する地元の期待も大きい。 ・保全対象人家の住民にアンケートを実施したところ、全5戸が「事業を継続する必要がある」と回答しており、事業に対する地元住民からの要望も強い。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果（令和 7 年度時点） <table><tr><td>B/C（i=4%）</td><td>参考:B/C（i=2%）</td><td>参考:B/C（i=1%）</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>4.5</td><td>7.8</td><td>10.6</td><td>12.3%</td></tr></table> ・総便益（B） 9.7 億円（平均便益：0.59億円） ・総費用（C） 2.2 億円（建設費：2.11億円、維持管理費：0.04億円、用地残存価値：0.001億円） ○見込まれる効果（定性的な効果） ・地すべりによる甚大な被害の防止 (3)事業の進捗状況（令和 7 年度見込み） <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>67.7%</td><td colspan="2">（ 191 百万円 ／ 282 百万円 ）</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>計器観測</td><td>100.0%</td><td colspan="2">（ 1 式 ／ 1 式 ）</td></tr><tr><td>横ボーリング工</td><td>66.7%</td><td colspan="2">（ 2 群 ／ 3 群 ）</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>71.1%</td><td colspan="2">（ 27 m² ／ 38 m² ）</td></tr></table> <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR	4.5	7.8	10.6	12.3%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		67.7%	（ 191 百万円 ／ 282 百万円 ）		事業量	計器観測	100.0%	（ 1 式 ／ 1 式 ）		横ボーリング工	66.7%	（ 2 群 ／ 3 群 ）		用地取得		71.1%	（ 27 m ² ／ 38 m ² ）		評価	継続が妥当
B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR																																						
4.5	7.8	10.6	12.3%																																						
区 分		進捗率	内 訳																																						
事業費		67.7%	（ 191 百万円 ／ 282 百万円 ）																																						
事業量	計器観測	100.0%	（ 1 式 ／ 1 式 ）																																						
	横ボーリング工	66.7%	（ 2 群 ／ 3 群 ）																																						
用地取得		71.1%	（ 27 m ² ／ 38 m ² ）																																						
評価	継続が妥当																																								
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 横ボーリング工を2群完了し、今後は残る横ボーリング工1群の整備を進める。 地元住民からの期待も大きいことから、事業を計画的に推進し、令和9年度完了を目指す。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																																
評価	継続が妥当																																								
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 コスト削減対策としては、詳細設計時において横ボーリング工を効果的に配置することにより、工事費を最小限に抑える工夫を実施している。また、新技術・新工法の活用を検討し、さらなるコスト削減を図っていく。																																								
対応方針（案）	(1)対応方針（案） 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は、地すべりによる被害を未然に防止するものである。集中豪雨の頻発化により地元の期待も大きく、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元も事業に協力的など、今後の事業の進捗が見込めることから事業を継続する。																																								

費用便益比算出説明書

「青谷」地すべり

(「地すべり対策事業の費用便益分析マニュアル(案)」国土交通省水管理・国土保全局砂防部)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額]	972百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	215百万円
B／C		4.52

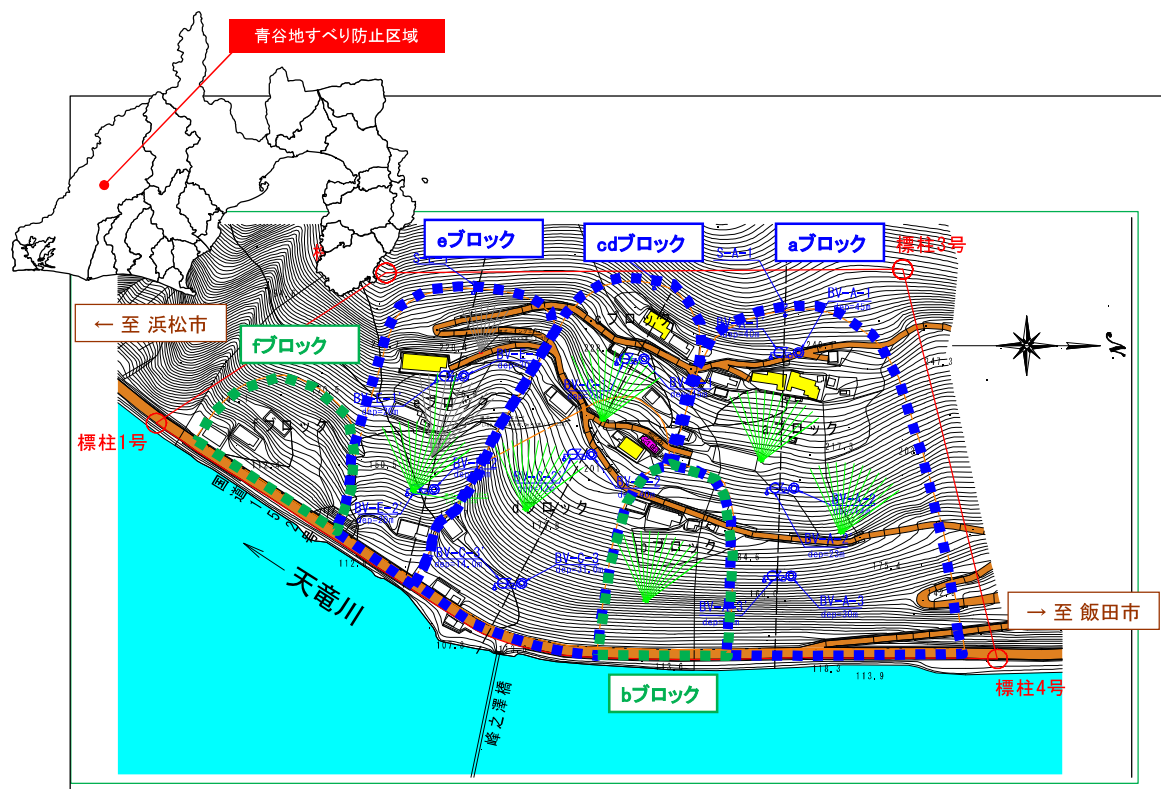
総便益

- 地すべり対策事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間62年(整備期間12年＋50年)とし、現在価値化する。
 - 施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。
- 総便益
- B = 地すべり発生時点における被害額に対して、施設整備後の被害額を引いた「被害軽減額」
 = 2,608百万円 - 1,725百万円
 = 883百万円

総費用

- 事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。
 - 評価期間内に必要な維持管理費
近傍の同規模施設に合わせて0.3百万/年間で設定
評価対象期間:50年
- 総費用
- C = $\sum$ 各年事業建設費 / $(1+0.04)^n$ + $\sum$ 年間維持管理費 / $(1+0.04)^n$
 = 211百万円 + 4百万円
 = 215百万円

1. 事業箇所位置図



1. 事業箇所写真



4. 事業の投資効果

事業の投資効果（費用対効果の検証）

総便益（B）

総便益 9.72億円

- ☐ 直接被害
 - ・家屋被害、道路被害、人的被害（逸失利益）
- ☐ 間接被害
 - ・営業停止、交通途絶、人的被害（精神障害）

総費用（C）

総費用 2.15億円

- ・建設費
- ・維持管理費



費用対効果(B/C):4.52 経済的内部収益率(EIRR):12.25%

前回の費用対効果(B/C):3.1

「砂防事業の費用便益分析マニュアル」の改定に伴い、人的被害額の精神的損害額が2.26億円/人⇒6.01億円/人に上げられたため

5. 今後の事業の進捗の見込み

● 事業推進のための取組



・関係する地権者と現地で立会を行い、事業の必要性を理解してもらい、用地買収への協力を求めた。